

4月のハイライト

- ふいご修理完了&組込み、風圧の仮設定
- 下鍵盤風箱(チェスト)修理完了
- 下鍵盤アクションの組立・調整
- 足鍵盤(ペダル)アクション部品の修理、組込み
- Mixtureストップ 欠損パイプの復帰
- ディスポジション変更検討
- 演奏台(コンソール)照明変更、電気配線更新

▶ ふいご完成&組込み

昨年9月から行っていた、ふいご修理が完了しました。ほとんどを革や羊皮紙をニカワで貼るという伝統的方法に依りましたが、気密試験の結果、非常に良好な結果でした。これを再度楽器内部に組込を行い、ブロフからの風入口・楽器への出口を接続しました。この接続部周辺も劣化のため単に接続しただけでは多くの漏れが認められましたが、環境安定性の高いシールで密着させ、漏れは許容範囲内となりました。楽器上での試験でも、風の消費に対する風圧変動も十分小さいものでした。念願だった安定した風がようやく得られるようになりました。



ふいごの単体試験中



楽器内で膨らんだふいご

▶ 下鍵盤チェスト修理完了

下鍵盤用チェストの修理を完了しました。チェストの底部にはパレットにつながるアクションを取り出す穴が空いています。そこから空気が漏れないよう元々革製の漏れ止めが使われていましたが、これが劣化し、大規模な風漏れが発生していました。今回、真鍮製ディスクによる、より信頼性の高い方式に改めたため、チェストの底板も新しく作り直しました。その結果、風漏れはほとんどなくなり、またスムーズに動くアクションとなりました。



新調したチェスト底板



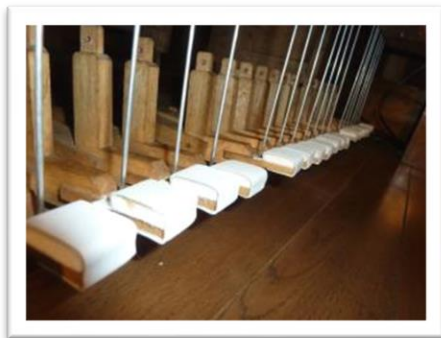
チェストに組んだ底板とディスク

▶ 下鍵盤アクションの組立・調整

下鍵盤チェストが直ったため、続けてアクションの組立を行いました。元々重たかった鍵盤を軽くするため、構成部品の様々な改良を行っていましたが、それらを組込むとともに、部品同士のアライメント不良やパレットスプリング(ばね)力を適正に調整しました。その結果、鍵盤の重さは元の半分近くに減らすことができました。また不必要な摩擦を可能な限り排除したことで鍵盤に触れる指先から風の動きを感じられる、演奏者の意志が表現しやすいアクションにすることができました。

➤ ペダルアクション部品の修理・組み込み

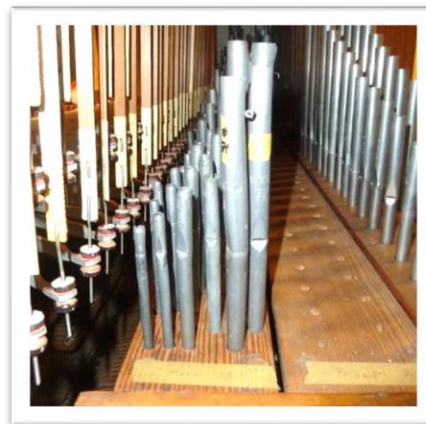
ペダルを戻すための一歩として、劣化していたアクション部品の修理と再組込を行いました。ペダルは足で操作するため強い力で瞬間的に押されることも多いのですが、その衝撃を和らげるために革やフェルトが一部に貼られています。これらが劣化していたため再貼付を行いました。



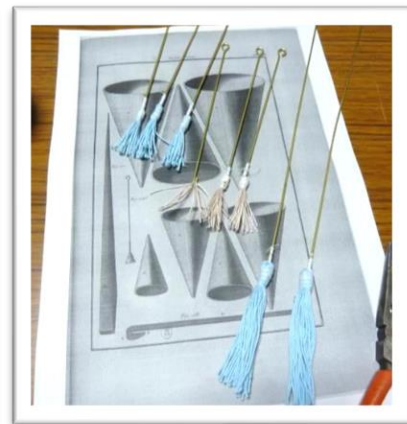
貼り直したフェルトと革

➤ Mixtureストップ 欠損パイプの復帰

下鍵盤には「ミクスチュア Mixture」と呼ばれる、高い音が3音・4音まとめてなる音色(ストップ)が付いています。他のストップと合わせて使うことで、いかにもオルガンらしい、豊かな音を得られますが、この楽器ではその一部が取り外されてしまっていました。これは単に音が減ってしまうということだけでなく、本来パイプが入っているべき穴から風が優先的に逃げてしまうことで、他のパイプも痩せた音でしか鳴らなかつたり、調律が不安定になってしまつたりと非常に良くない状態でした。取り外されたパイプはまとめて楽器内部に残されていましたが、今回はそれが本来どこにあるべきだったかの分析を行い、元に戻す作業を実施しました。その結果、これまで不完全であった音のピラミッドの頂が完成され、オルガンらしい豊かな音色と音量が得られるようになることが確認されました。



もとに戻ったMixtureパイプ郡



Mixtureの調律を行うための道具も18世紀の図版に基づき制作

➤ ディスポジションの変更検討

ディスポジションとは、オルガンが備えるストップの一覧のことです。絵画で言えば、使うことのできるすべての色が出された絵の具パレットのようなものです。今回の改修では複数箇所の変更を予定していますが、その一部に下鍵盤のディスポジション変更もあります。詳細は割愛しますが、より安定した音のピラミッドと、使うことのできるレジストレーション(ストップの組み合わせ)のバリエーションを増やす目的です。オルガンは実際の使用状態(=会衆が集まった状態)で確認をすることが必要になり、空席状態でのみ評価することは判断を誤ることがあります。そこで5月14日の結婚式では不完全な状態ではありますが、試験的にオルガンを使用させて頂きました。この結果、多くの会衆が入った状態であっても、負けない音量、安定感のあるプレナム(このオルガンでは下鍵盤全てのストップを出した音色)、使いやすいレジストレーションとなることが確認できました。

今回ふいごやアクションが復帰し、試験的に音も出せるようになりましたが、現段階では「ただ鳴っている」状態です。これから整音や調律といった多くの作業が必要となるため、引き続き実施していきます。